柔道グランドスラム東京大会 2014　トレーナー活動報告書

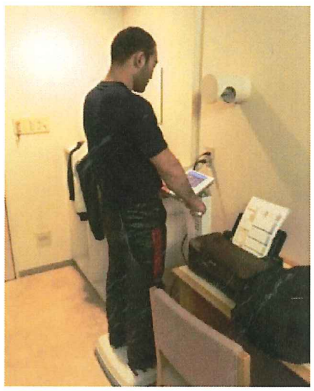
国 際 部

日時：平成 26 年 12 月 4 日（木）～7 日（日）
場所：東京体育館
派遣者：金井英樹　・　田澤裕二（国際部）
田澤俊二（神奈川県柔道整復師会）　浪尾敬一（香川県柔道整復師会）

国内で行われる年内最後の国際大会のグランドスラム東京大会において、モンゴル国、韓国の柔道選手の救護、およびコンディショニングを行った。両国ともに世界で活躍する選手が来日し、今回も上位獲得の兆しを感じた。試合前日から両国の選手を治療したが、世界各地を駆け巡り連戦、連戦による負傷および関節や筋肉などの不具合が多数の選手に見られ、まさに満身創痍での参加であった。

宿舎でのコンディショニング

東京体育館


ボディチェックする選手

今年はモンゴル国から選手の体組成を調べたいとの要望があり、伊藤超短波さまのご協力を得て体組成計（in-body）を宿舎に設置しボディチェックも行った。簡便かつ詳細なデータを調べることができ、出場するほとんどの選手が計測を行い、自らのデータに関心を持っていた。体重もひと目でわかるため、計量前のチェックにも役立ったようだ。また携帯用治療機器も２台お借りすることができ、試合中、試合後も効率よくボディケアができた。

試合前のテーピング処置

試合後のケア

損傷部位に対するケア

モンゴル国、韓国ともにテーピングの普及により多用する選手が多かったが、テクニックも着々と身に付け自分自身でもうまく巻ける選手が少なくなかった。テーピングに限らず我々が選手のケアをしていると帯同しているコーチや選手が関心を持ち、我々の手技やストレッチの方法など動画で撮影したりノートにメモ書きをしていた。試合前、試合後のコンディショニングの仕方は選手のニーズが優先されるため、必ずしも日本でのルーティーンワークが適用されないこともあるが、最高のパフォーマンスが演出されるように良いものは伝えていければと考える。今後も両国をサポートしてく予定だが、スポーツ現場を通して我々が日常的に使っている技術が海外の選手に少しでも伝えることができれば、この活動も意義があることだと思う。